

みんなで考えよう

# 市町合併

第14回

10月23日に、第3回彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町合併協議会が甲良町公民館で開催されました。この日は、新市の名称や新市の事務所（市役所）の位置に関する提案が行われるなど、いよいよ実質的な協議が始まりました。

今回は、3回目の合併協議会の内容などについてお知らせします。



甲良町公民館で開かれた第3回合併協議会

## 合併の方式は「新設」、 期日は平成17年2月

会議では、協議事項として合併の方式や期日について話し合われ、次の二つの事項が確認されました。

まず、合併の方式については、合併前の関係市町を廃し、その区域をもって新しい市を設置する新設合併とすることがされました。

また、合併の期日は、平成17年2月とされました。

## 新市の名称などは 次回の協議会で議論

名称や市役所の位置については、次のとおり提案され、次回の協議会の場で議論されることになりました。

論されることになりました。

### ●新市の名称は

新市の名称については、現在の各市町の名称（彦根、豊郷、甲良、多賀）に、小委員会候補を選定した公募による新たな名称を加え、住民アンケートを実施し、協議会で決定する。

### ●新市の事務所の位置は

- 1 新市の事務所は、当面既存の建物を利用することとし、その位置については既存建物の規模、利便性、他の行政機関との位置などを勘案し、彦根市元町4番2号（現彦根市役所）とする。
- 2 地方自治法第4条の規定に基づき定めている合併前の各町の事務所については、支所とする。

## 早速、こんな意見が出されました

これらの提案については、次回の協議会で議論される予定ですが、第3回の協議会でもすでに活発な議論が行われました。主な意見などを紹介します。

### 新市の名称について

新設合併は、1市3町が同じスタートラインに立って、新しいまちづくりをするということ。それには、新しい名称にする方がふさわしい。住民の意見を尊重するのであれば、公募の案の中から考えていくべき。最初から彦根、豊郷、甲良、多賀を入れると、固定観念が入って新しい発想ができないのではないかと。

これまでの名称は、歴史や伝統があり、住民にも親しまれている。また、全国的にも知られている。今までの名称も入れて選ぶべきではないかと。アンケートを実施するにあたっては、できるだけ多くの住民の意見を聞くようにしなければならぬ。

### 新市の事務所の位置について

財政状況が厳しい中、いかに効率的な行政をすることが重要。既存の施設を利用することで支出を減らし、この状況を乗り越えていく必要がある。

彦根市役所を新市の事務所にするとう、現大上郡の住民にとっては役場が遠くなる。新市の東部や南部にも役所を用

## “まち”の姿を見てみよう①

### 多賀町

#### 歴史

多賀町は、緑豊かな鈴鹿の峰々や、犬上川・芹川の清流に恵まれるなど自然豊かなまちです。その歴史は、すでに縄文時代にあけぼのを告げ、弥生・古墳時代には村々が点在していたことが、数々の古墳群などによって推測されます。

近世前期には戦乱の舞台となり、関ヶ原合戦後は、彦根藩の支配下に置かれていました。

明治維新後、明治32年の町村制施行によって、多賀・久徳・芹谷・脇ヶ畑・大滝の5村が発足。昭和16年には、多賀・久徳・芹谷の3村が合併して旧多賀町ができ、さらに同30年には、多賀・大滝・脇ヶ畑の1町2村の合併によって現在の多賀町が誕生しました。

#### 地理

多賀町は滋賀県の東北部、犬上郡に属しています。町域は東西10km、南北15km、総面積は135.93km<sup>2</sup>です。町の東部には霊仙山・鍋尻山・高室山・三国岳・鈴ヶ岳など、標高1,000m内外の峰々が連なり、芹川・犬上川の清流が町の東南部を源にしてびわ湖に

#### 注いでいます。

また、町面積の大部分を占める広大な山林では、杉、檜、松などが美林を形成し、良質材をはじめ、各種の林産物が搬出されています。各河川の流域に発達した耕地は、米、麦など穀類の生産のほか、そ菜類の栽培に適しています。

#### 交通

中心部には国道306号、307号が縦横に交差しており、名神高速道路が南北に通じています。また、近江鉄道多賀線が彦根市高宮町から分岐し、多賀町中心部の多賀大社前駅が終点となっています。

#### 人口

平成12年の国勢調査では8,463人です。昭和40年から同45年にかけていったん減少したあと、同60年までは大きな増減はありませんでしたが、その後減少傾向にあります。

#### 施設など

工業団地の造成時に発掘されたアケボソウの化石

を展示し、併せて多賀の貴重で特異な自然を体験し学習できる「多賀の自然と文化の館」や、小惑星「Taga」を発見したことで知られる「天究館（アストロパーク）」、霊仙山麓にあり、未だその全容が明らかになっていない巨大鍾乳洞「河内風穴」などがあります。

また、「高取山ふれあい公園」は、林業を体験し滞在しながら「自然をぶぶる（遊ぶ・学ぶ・感じる）」施設で、森林資源を活用した「木炭発電所」が置かれるなど、豊かな自然を体感し、森林をいかした環境への貢献もできる森林公園です。ほかに、芹川ダム、野鳥の森、や犬上ダムの「おしとりの里」では、子どもたちや地域住民の手により、生きものの観察学習や、自然との共生関係が模索され、多様な活動が続けられています。



多賀大社

## 新しい まちづくりに向けて

今回協議・提案された4項目は、合併協議における基本4項目といわれる重要な項目です。新しいまちづくりに向けて、市民の皆さんも、それぞれの「家庭や職場、また各地域において話し合いを深めていただきたいと思います。

市町合併についての問い合わせは市町合併推進室 ☎21411 番内線 414番、FA X211398番へ。

